

令和6年度地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業

札幌国際大学	①	i. 連携している地元産業界等の組織名称	北広島市
		ii. 当該連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標	北広島市は、居住、観光、ビジネスにおける交通利便性と豊かな自然の中での暮らしが共存するポテンシャルがある。その一方で、同市は、急速な少子高齢化の進行、人口減少による活力低下や地区の分散と都市機能の不足及び流出するという課題を抱えている。 当該連携事業は、北広島市と本学で包括連携協定を締結した中で実施される。これは、官民連携に加え、教育機関の知見や人材提供が可能となり、将来的には民間企業も交えた産学官民が共同するプロジェクトを展開することを見据えている。また、中長期的に産学官民が共同するプロジェクトの展開を目標とする一方、本学が有する知見と人材を提供し、北広島市が直面する諸課題について検討することができれば、短期的な取り組みも産学官民プロジェクト展開の一助となる。
		iii. iiの課題の解決に向けて実施する取組みの内容	本学が有する人材(学生)の視点から、北広島市について文献調査および実地調査を行い、若者が感じる課題の抽出とその課題解決に向けたアクティブラーニングを展開した。そのなかで同市の活性化、支援事業、人材育成、産業・学術・文化の振興に関する資料を得ることを主目的とし、それに加え、学生の汎用的な能力および課題解決能力の向上を検討することを副次的な目的として実施した。
札幌国際大学	②	i. 連携している地元産業界等の組織名称	札幌市清田区
		ii. 当該連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標	日々テクノロジーの進化は驚くほどだが、例えば生成AIは働き方改革においても重要な役割を占めており、働き手不足を補う一手としても考えられている。また3Dプリンター等についてもかなり身近な価格と操作性になってきたこともあり、今では一部の小・中学校でも導入されるまでになってきた。ただし、これらのテクノロジーはそれでもまだ限られた機会に触れるものであったり、操作的なスキルを補助してもらわなければ使えないものもある。 一方、上記のようなテクノロジーの環境が大学の中には整備されつつあり、地域貢献という大学の役割からすると、そのような環境を初めての人でも安心して使ってもらう機会を設定することは必要と考える。そのような機会に、一般の方や地域の子供達が最新のテクノロジーに触れることで、創造性が刺激されたり、生活等での工夫への意識へとつながることを期待する。また、自分で「ものづくり」をすることで、SDG'sの視点でも意識の高揚を図りたい。
		iii. iiの課題の解決に向けて実施する取組みの内容	本学情報教育センターの以下の環境を活用し、市民向け講座を実施する。 ＜講座の内容＞ ○ChatGPT入門講座 ・12月11日(水)18:30～20:00 ・対象:一般(20名) ○オリジナルトートバックづくり ・12月15日(日)・1月11日(土) 9:30,10:30,11:30の3部制 ・対象:清田区在住の小中学生親子(各時間子ども10名ずつ) ○eスポーツ/VR体験教室 ・12月15日(日)・1月11日(土) 13:00～14:30 ・対象:高校生、高校関係者(各回10名程度)
札幌国際大学短期大学部		i. 連携している地元産業界等の組織名称	札幌市清田区
		ii. 当該連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標	コロナ以前に戻りつつある清田区のイベント、またきよたスイーツのPR活動について、昨年度見直しを行った清田区との協力体制に基づき、単科目で終わらず、必修授業も活用して学科学生全員が接点を持ち、関心の強い学生には複数科目にわたって関われる体制を準備し、さらなる活性化に寄与する新たな取り組みを提案する。引き続き地域が持つ食の魅力発信の例として、学生の関心の高いきよたスイーツを活用し、かわりを持ちながら、区からいただいた課題についての企画を行うことを木批評とする。区のイベントにて学生ボランティアを活動させ、それが学生の学びの場ともなるように授業を設計することを目標とする。学びの場としての清田区への、学生の愛着や関心を高める。
		iii. iiの課題の解決に向けて実施する取組みの内容	①スタンプラリーのPR ②学内きよたスイーツワゴンの運営 ③区民祭り、おしごとごっこフェスなどの運営補助 ④授業内で授業素材としてきよたスイーツを活用する ⑤学園祭でのきよたスイーツ特設店舗の計画運営